

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年 5月 8日

堺市長 殿

提出者

住 所 高知県高知市針木東町26番54号

氏 名 株式会社オアシス・イラボレーション

代表取締役 川渕 誉雄

電話番号 088-843-6811

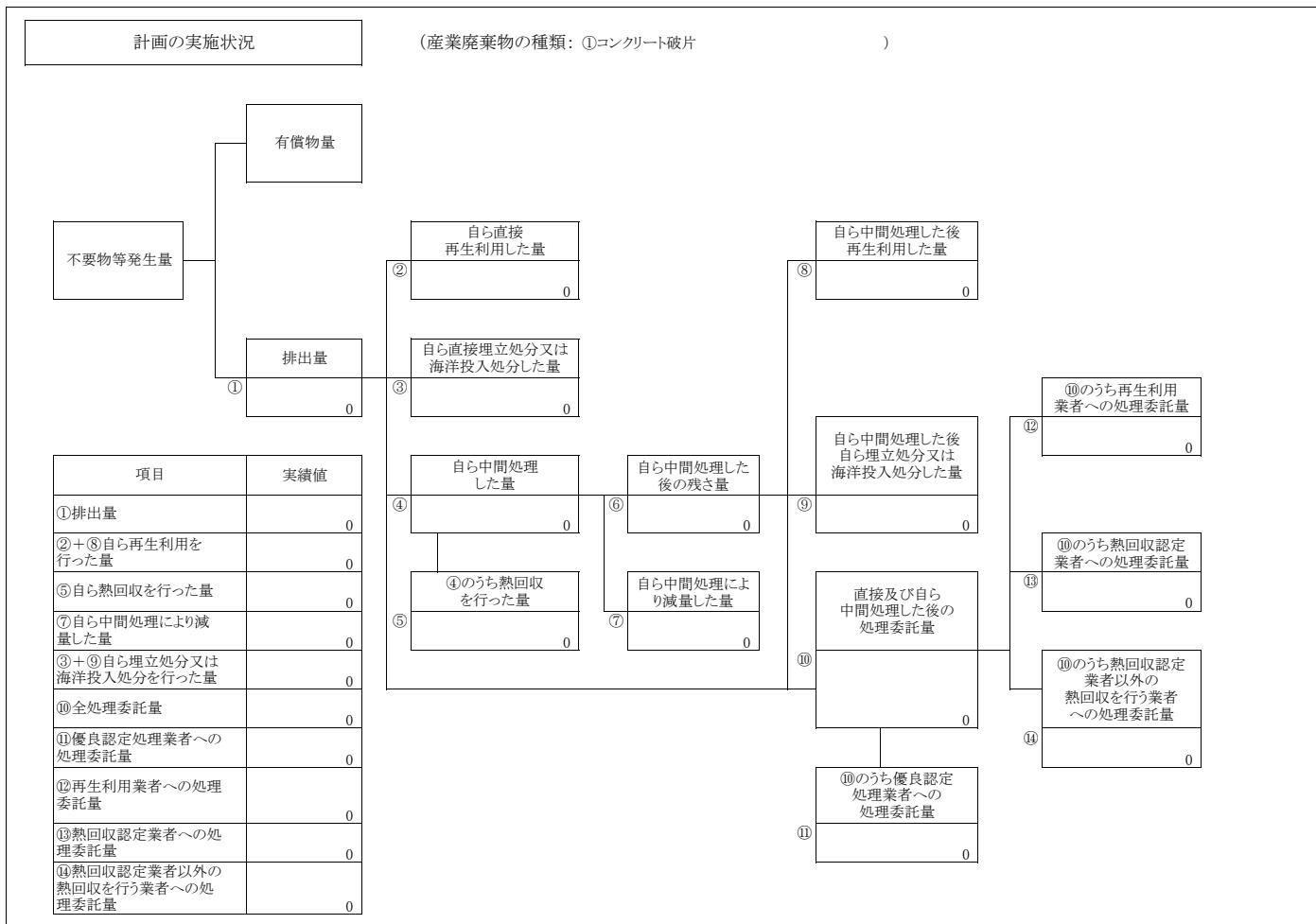
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

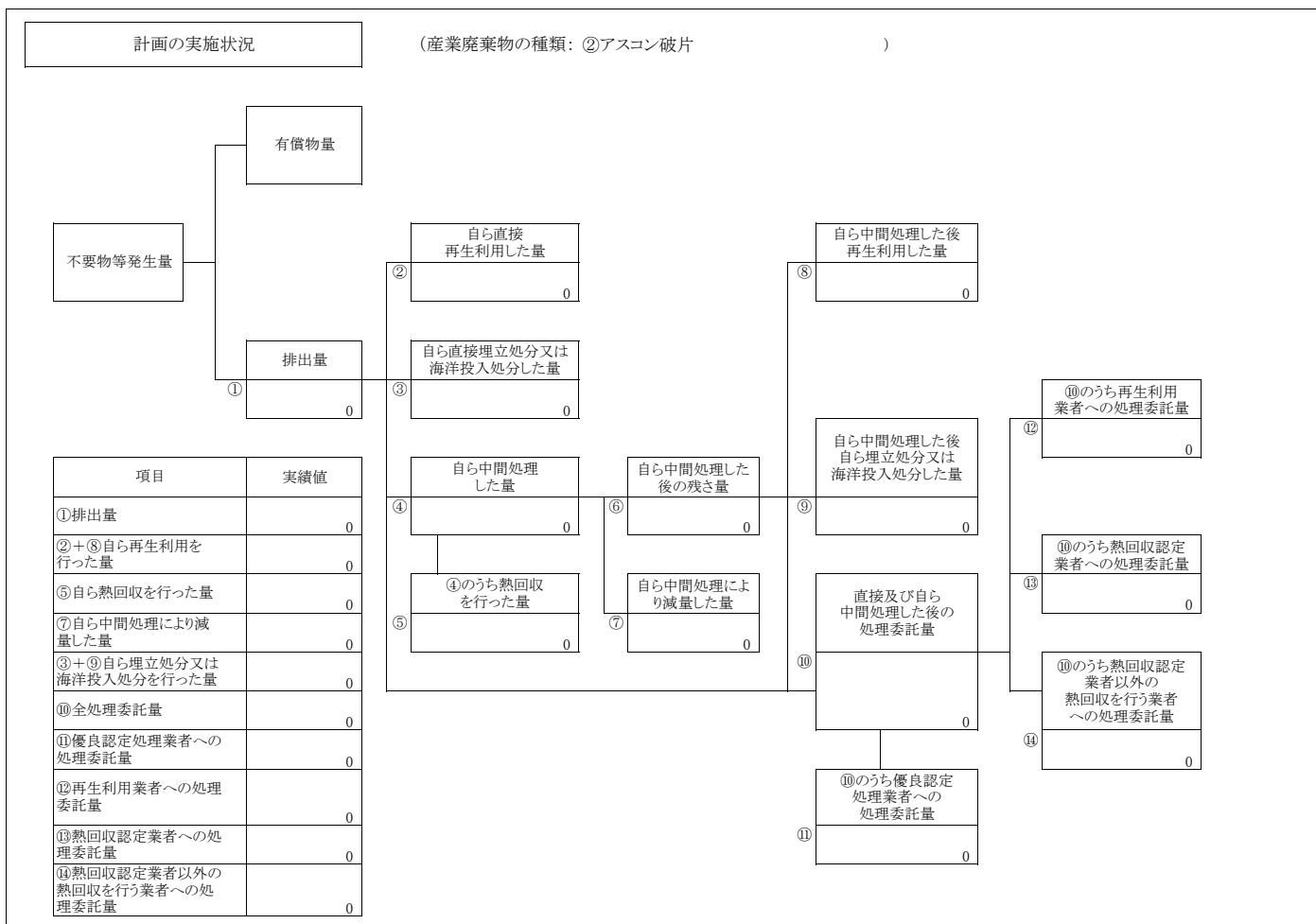
事 業 場 の 名 称	なし
事 業 場 の 所 在 地	なし
事 業 の 種 類	はつり・解体工事業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

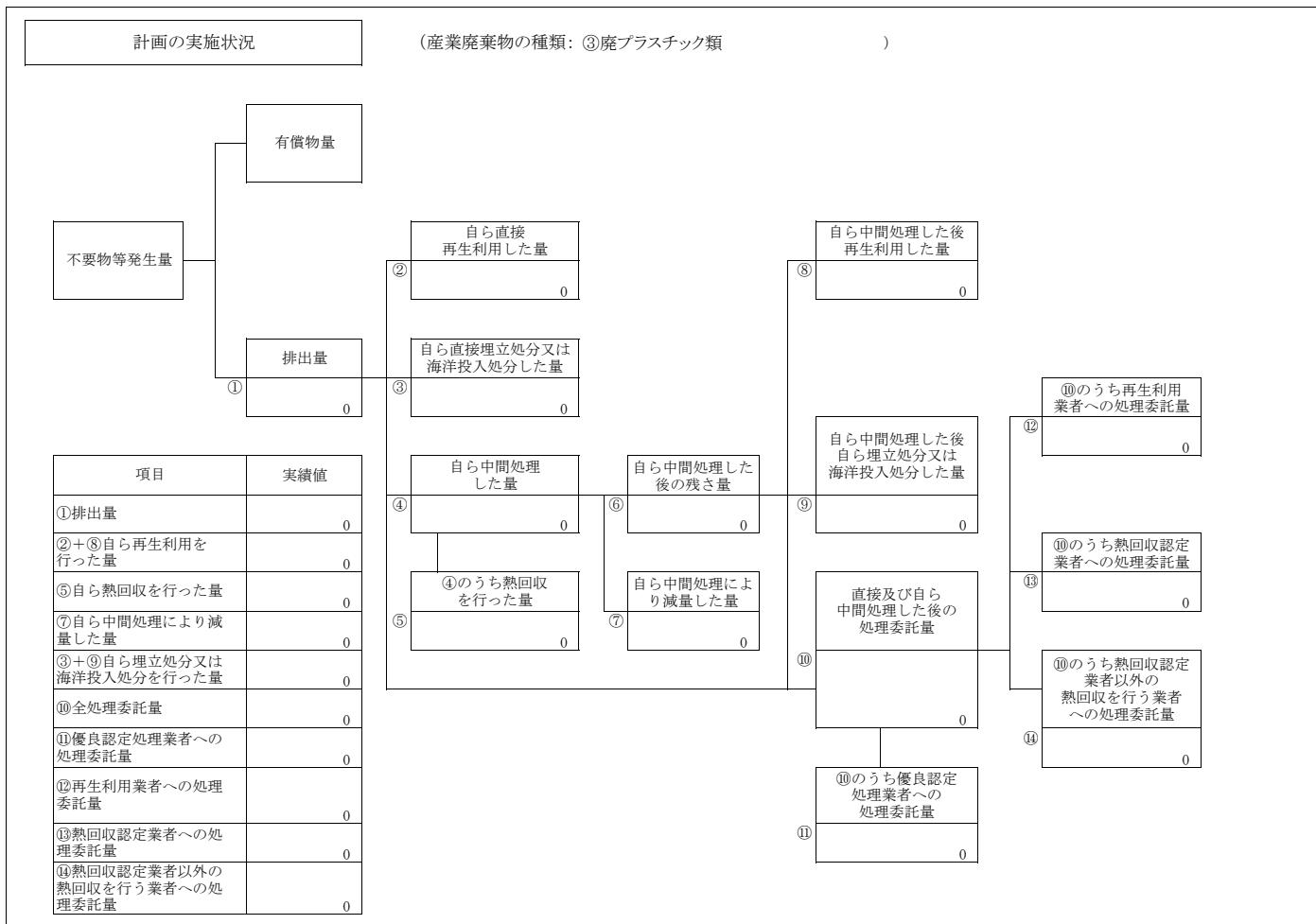
産業廃棄物処理計画における目標値

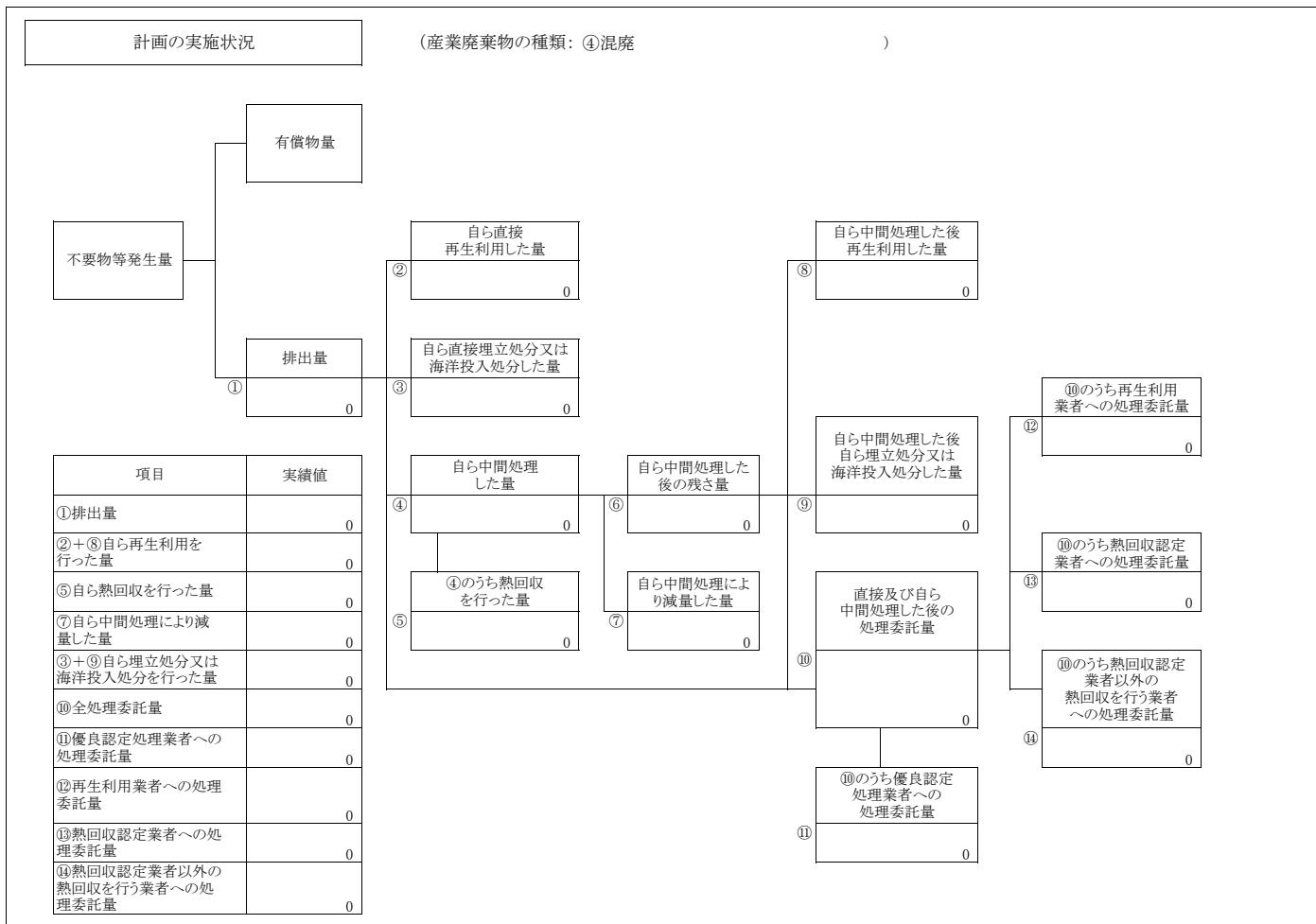
項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	0t	全 処 理 委 託 量	0t
自 ら 再 生 利 用 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	優 良 認 定 処 理 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 热 回 収 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 中 間 処 理 に よ り 減 量 す る 産 業 廃 棄 物 の 量	t	認 定 热 回 収 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 埋 立 处 分 又 は 海 洋 投 入 处 分 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	認 定 热 回 収 業 者 以 外 の 热 回 収 を 行 う 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)









備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑯の欄のそれぞれに、(1)から(16)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄には、何も記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の〔別紙〕

提出者	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
<small>産業廃棄物を排出する事業者を統括的に管理する支社等の行方不明の場合は、報告担当部署の名称に記載する旨を明記する。</small>						
<small>報告担当部署の氏名に記載する旨を明記する。</small>						
新潟県長岡市野木東町28番54号	株式会社オニアス・イワガレーション	企画部				

産業廃棄物の種類 コード 参照	計画の実施状況												③+⑤ 自ら立替分又は海 洋投げつけた量
	①排出量	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自ら直接埋立 料又は海洋投 げつけた量(t)	④自ら中間処理 熱回収を行った量 (t)	⑤自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残存量 (t)	⑦自ら中間処理 した後再生利用 自ら埋立料又は海 洋投げつけた量(t)	⑧自ら中間処理した後 自己処理した後の 廃棄委託量 (t)	⑨直接及び自ら (①-②-③-④-⑤-⑥-⑦-⑧)=⑩+⑪+⑫+⑬+⑭ 委 手 先 に よ る 使 用 分	⑩直接受託業者への ⑪転回受託業者 ⑫転回認定業者 ⑬その他の中間処理 ⑭直接受託業者 への廃棄委託量 ⑮自ら再生利用 自ら立替分委託量 を行った量(t)	⑩直接受託業者 への廃棄委託量 ⑪転回受託業者 への廃棄委託量 ⑫転回認定業者 への廃棄委託量 ⑬その他の中間処理 ⑭直接受託業者 への廃棄委託量 ⑮自ら再生利用 自ら立替分委託量 を行った量(t)		
発生した産業廃棄物の種類ごとの量 合計	1501 ①コンクリート破片	0							0			0	0
	1502 ②アスコン破片	0							0			0	0
	3 600 ③廃プラスチック類	0.0						0.0				0	0
	4 200 ④混雑	0								6		0	0
	5 ⑤											0	0
	6 ⑥											0	0
	7 ⑦											0	0
	8 ⑧											0	0
	9 ⑨											0	0
	10 ⑩											0	0
	11 ⑪											0	0
	12 ⑫											0	0
	13 ⑬											0	0
	14 ⑭											0	0
	15 ⑮											0	0
	16 ⑯											0	0
	17 ⑰											0	0
	18 ⑱											0	0
	19 ⑲											0	0
	20 ⑳											0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注1)ト�未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有效であれば小数点以下3桁まで記載は可。

(注2)上記の産業廃棄物の種類以外の排出実績があった場合は、必要に応じ、直接追加入力とともに、第2面も追加してください。